

有珠山噴火で避難した 子どもたちを受け入れた 学校経営

(代表執筆者) 北海道豊浦町立豊浦小学校校長

きくち せいじ
菊池 征児

【実践の概要】

平成12年3月31日、有珠山が噴火した。隣町、虻田町(あぶたちょう)の470人に及び避難者を受け入れ、さらにその後、虻田小学校、洞爺湖温泉小学校の児童298人を受け入れた本校であった。すべての特別教室を改修して、共同生活することとなったことから、少なからず、一校体制の学校運営を図るつもりはなかったが、避難生活という異常な環境のもとにおかれた児童たちに、人間関係のうえからも健全な日々を送ってもらうことや、充実した学校生活を送ってもらうために「人間遊合楽習構想」(造語。児童を融合させるための取り組み)を策定して、学校運営にあたった。

全校あげて学習活動等を実践したのであったが、それはあくまでも児童自らが企画して運営するといった「児童を主役とした取り組み」にこだわり、本校の研究課題である「児童の存在感を体得させる取り組み」として実践を試みたのであった。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

自然災害時、避難児童を受け入れた場合の対処の仕方、学校運営のあり方について研修し、学校としての実践力を高めたかった。

2 研究の仮説

- (1)本校が志向している「人間遊合楽習構想」は、他校との共同生活という環境下においても応用できる。
- (2)2年間にわたって「遊合楽習」の取り組

みをして確かな「思いやり」を体得してきた本校児童は、その体験を、共同生活をすることとなった虻田町の児童たちにも実践することができる。

- (3)共同生活している児童との交流学习を通して友情を育て、それを継続していく強い「意思」を育むことができる。
- (4)緊急事態における学校のあるべき姿、教職員のあるべき姿について、共通理解を深め、一丸となって実践することができる。

3 研究の内容

- (1)三校が共同生活するための学校運営構想の設定について。
- (2)学習活動の展開による児童の交流と遊合を深める学校運営のあり方について。

4 研究の実際(学習活動の実践)

- (1)三校「遊合楽習構想」の設定。
- (2)全学年の集会活動～遊合楽習集会の開催、児童が中心となって運営する遊合集会や「お別れ集会」を通して友情を深めた。

5 成果と課題

- (1)「遊合楽習構想」を応用したことで、三校の共同生活を円滑に運ぶことができた。
- (2)本校の児童は、共同生活した児童との交流を通して「思いやり」を実践できたばかりか、友情を育て、それを継続することの大切さを学ぶことができた。
- (3)緊急事態における学校のあるべき姿、教職員のあるべき姿について学ぶことができたが、「子どもを主役にした取り組み」をする具体的な指導方法について、さらなる工夫が必要であることが分かった。